

国語科学習指導案

日時 平成28年5月13日(金) 4校時

児童 2年生

授業者

場所

1 単元名 お気に入りの場面を紹介しよう～「えいっ」～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、読んだ本の、お気に入りの場面を紹介する言語活動を通して、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力を高めることや、日常生活とのかかわりを図りながら読書を楽しむ態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「えいっ」は、くまの父さんとくまの子の心温まる会話を中心として構成されている作品である。くまの子の願いを叶えてくれる、くまの父さんの『えいっ。』という言葉を通して場面が展開されていき、会話や心内語からそれらの場面の様子について想像を膨らませて読み取ることができる作品である。また、それらの会話や心内語を音読したり、それぞれの『えいっ。』に込められた気持ちの違いを考えたりすることで、それぞれの場面の様子を感じ取りながら、楽しんで読むことができるようになっている。

さらに、主語と述語の間に「平気な顔で」「困った顔で」など、場面ごとの登場人物の様子が直接的に描かれており、時間や場所の設定や展開がわかりやすい構成になっている。そのため、平穏な日常を描きつつも、親子それぞれの目線での葛藤が表現されており、児童が共感的に読書に浸ることができるようになっていると考える。これらのような作品の特徴から、児童が既得の言葉の力を発揮したり、確かめたりしながら、場面の様子について想像を膨らませて読むことに適した教材であると言える。

(2) 児童観

これまでに、児童は文学的文章においては次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに体験した活動	それによって獲得した言葉の力	既得の言葉の力を本単元において活用を図っていくもの
<ul style="list-style-type: none"> ○短い文章のあらすじや登場人物の気持ちを考えながら音読する活動 ○繰り返し描かれる展開を楽しみながら、物語を演じる活動 ○登場人物の気持ちや場面の様子をまとめて、紹介する活動 ○場面の大きな様子を捉え、紙芝居をする言語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間や場所などの状況設定を考えながら読む力。 ○登場人物の行動や会話を読む力。 ○登場人物の会話や行動から、気持ちの変化を読む力。 ○登場人物の行動や会話を基に、場面の様子について想像を広げながら読む力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を進めるための大きな計画を立てる力 ○登場人物の行動や会話を捉えながら、人物の気持ちについて想像する力 ○登場人物の気持ちを考えながら、場面の様子について想像を広げて読む力

3 単元目標

自分のお気に入りの『えいっ。』がある場面を紹介する言語活動を通して、登場人物の行動や会話を基に場面の様子についての想像を膨らませて読むことができる。

4 評価規準及び道徳的学び

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	道徳的学び
ア 自分の読書体験を想起したり、読み聞かせを聞いたりしながら、本の楽しさを味わって読もうとしている。	ア 物語の大きな内容を捉えながら中心教材を読んでいる。 イ 中心教材の中で、場面の印象的なところを捉えて読んでいる。 ウ 中心教材の登場人物の行動や会話に着目しながら、場面の印象的なところを捉えて読んでいる。 エ 中心教材の登場人物の行動や会話を基に、人物の気持ちや場面の様子を想像して読んでいる。 オ 中心教材の登場人物の行動や会話を基に、人物の気持ちと場面の様子を関連付けて読んでいる。 カ 中心教材の登場人物や場面の様子を捉えながら、人物の行動や会話の根拠を読んでいる。 キ 自分が選んだ関連作品の大きな内容を捉え、登場人物の行動や会話を基に、人物の気持ちや場面の様子について想像を広げて読んでいる。 ク 自分が選んだ関連作品の登場人物の行動や会話を基に、人物の気持ちと場面の様子を関連付けて読んでいる。	ア 言葉のつながりやまとまりに注目しながら読んでいる。	2-(3)「信頼友情」 自分や友達のお気に入りの本を紹介し合い、友達の気付きに目を向けながら感想を交流する。

5 単元の指導計画（全10時間）

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> これまで自分が読んできた本やお気に入りの本を紹介し合う。（動物の物語） 中心教材「えいっ」を紹介し、読み聞かせ（紙芝居）を聞き、感想や疑問を交流する。 お気に入りの場面とその理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □読書ファイルを基にこれまでの経験の想起を促す。 □感想（作品の雰囲気）や状況設定（時・人物・場所・何が）、疑問を整理し、あらすじを捉えることができるようにする。 	関ア
2	<ul style="list-style-type: none"> 「えいっ」で、お気に入りの『えいっ』がある場面をハートブック（別紙参照）で紹介することを知り、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> □教師の見本（大きなかぶ）を提示することにより、視点を持ちながら大まかな学習計画を考えることができるようにする。 	読ア
3	<ul style="list-style-type: none"> 「えいっ」を読んで、疑問に思ったことやよくわからなかったこと（謎）を考える。 「語彙理解・内容理解」に関わる「謎」を全体で共有し解決する。 お気に入りの場面とその理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □「謎」を位置付け、それらが解決することにより、お気に入りの『えいっ。』がある場面の紹介ができるようになっていくことを捉えられるようにする。 □解決ブックを提示し、「謎」やその解釈を蓄積していくことができるようにする。 	読イ
4	<ul style="list-style-type: none"> 「謎」を交流し、その中で自分が追究していきたいものを選択する。 お気に入りの場面とその理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □解決ブックに蓄積された「謎」を基に交流することで、追究していくことで「心の声がわかる謎」であるのかを考えることができるようにする。 	読ウ
5	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ場面と同じ場面の「謎」を解決しようとしているグループで、解決ブックに「謎」の解釈を整理する。 お気に入りの場面とその理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □同じ場面の「謎」を解決しようとしている児童を類別し、個や小グループの中で生み出された解釈を結び付けたり、妥当性を問うたりすることで、自分の読みを広げたり深めたりすることができるようにする。 	読エ 言ア
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 異なる場面の「謎」の解釈を交流する。（全体交流） お気に入りの場面とその理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □異なる場面の「謎」を解決している児童の解釈や根拠としている言葉を取り上げて共有することで、人物の性格や気持ちの変化、場面の様子についての「矛盾・欠落・飛躍」に気付きながら、自分の読みの一貫性を高めることができるようにする。 	読オ
7	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場面でハートブックを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> □「謎」を解決し、選んだ場面の理由が深まったことを価値付けすることで、他者との交流のよさや自分の言葉の力の高まりを実感することができるようにする。 	読カ
8 9	<ul style="list-style-type: none"> 「動物のお話」の中から、自分のお気に入りのお話を選び、解決ブックに「謎」とその解釈を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> □個や同じお話を選んだ小グループに、中心教材で学習した「謎」を解決する視点を促すことで、他作品の言葉を楽しんだり、親しんだりしながら「意識的に」既得の言葉の力を活用できるようにする。 	読キ
10	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの「動物のお話」でハートブックを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> □個や同じお話を選んだ小グループのハートブックを基に、解決してきた「物語の謎」の解釈を問うことで、自ら他作品とかかわることができた実感を味わうことができるようにする。 	読ク

6 小中連携の視点

	小学校2年生	小学校3年生	中学校2年生
目指す 子供の姿	自分のお気に入りの場面を紹介する活動を通して、登場人物の行動や会話に着目しながら、想像を広げて読む姿。言葉を楽しんだり、言葉に親しんだりしながら読書の世界を広げていく姿。	紹介したい本のスピーチ大会を行う活動を通して、登場人物の行動や会話を関連付けて読む姿。目的に応じて、様々な本を選びながら読んでいこうとする姿。	中心教材の作品と、その作品のモチーフとなった作品を比較する活動を通して、作者が中心教材の作者が込めたメッセージを捉える姿。文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる姿。
手立ての 視点	<ul style="list-style-type: none"> 言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定 「読む視点」を焦点化したり、叙述の比較・有機的関連付けを促したりする教師の関わりや場の設定 中心教材で獲得した言葉の力を広げることができるような本や文章と関わる場の設定や教師の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定 「読む視点」を焦点化したり、叙述の比較・有機的関連付けを促したりする教師の関わりや場の設定 中心教材で獲得した言葉の力を自覚できるような本や文章と関わる場の設定や教師の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けるべき言葉の力を明確化した言語活動の位置付け 特定の思考過程を経由することを促し、かつ生徒の予想を覆しうる課題設定もしくは発問の工夫

単
元
の
序
盤

I 状況的興味の喚起・維持を促すために～言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定

教材名	教材の特徴	指導事項	言語活動例
えいっ	地の文や会話文などに着目しながら、場面の様子を捉えやすい。	登場人物の気持ちを読む力 場面の様子を想像して読む力	才 読んだ本について、好きなところを紹介する言語活動

①「言葉との出会い」の工夫

これまで読んできた動物が登場するお話やそのおもしろさについて交流した後、「えいっ」を紹介して読み聞かせ（紙芝居）をすることで、児童が言葉に「楽しさ」や「親しみやすさ」を感じることができるようにする。

②単元を貫く言語活動に向けた「やるべきこと」の対話的・相談的な提案

ハートブックを作成してお気に入りの場面を紹介するための計画について交流していく。その際、教師が作成した見本（「大きなかぶ」）を見ながら、「お気に入りの場面を選ぶこと」「選んだ理由を書くこと」「挿絵と吹き出しを書いて、人物の心の中を表現すること」に気付くことができるようにする。それにより、児童が自ら視点を焦点化し、教師との関わりの中で学習計画を立てていくことができるようにする。

③「言語意識」とのかかわり

単元を貫く言語活動「ハートブックでお気に入りの場面を紹介しよう」を提案する。その際、学級の友達に紹介するという相手意識を具体的にしながら、ハートブック作成への意欲を高めることができるようにする。

①日常の言語生活との関連を図りながら、言葉とかかわろうとする子供

単
元
の
中
盤

II 個人的興味の出現を促すために～「読む視点」を焦点化する教師の関わり

作品と出合う段階	中心教材との出会いの後、感想を交流しながら「物語の謎」について話合う場を設定する。この段階では、「ころあいて何？」「なぜ、くまの父さんはほっとしたの？」などの「 語彙理解、内容理解に関わる謎 」を全員で解決して作品を読み進める土台をつくっていく。
作品を読み進める段階	一人一人が発見した「物語の謎」を追究していくための方法として、「解決ブック」（発見・解決した「謎」の蓄積）と「解決アイテム」（場面や登場人物に応じたワークシート）を紹介する。「くまの子が口を開けていたときの気持ちは？」「くまの子はだまって何を考えていたの？」「困ったような顔をしたときの父さんの心の声は？」などの「 登場人物の行動や気持ちに関わる謎（なぜ？どうして？）何を？どのように？ 」に分類しながら、自らの方法で「謎」に迫っていくことができるようにする。

III (1) 内的活動の高まりを促すための工夫～叙述の比較・有機的関連付けを促し、自己の読みを再構成する場の設定

個で読み進める場面

主に、叙述の欠落を補填し、内容理解を促す発問や問い返しを行う。その際、語彙の獲得数や言葉のまとまりが原因で読解ができない児童には、語彙の意味がわからないところを問い、全体で共有しながら解決したことをメモしていくように促す。

少人数による集団解決場面

叙述の欠落を補填することに加え、矛盾や飛躍を修正する発問や問い返しを行う。その際、同様の謎を解決している児童同士をつなぎ、解釈や根拠とする人物の行動や会話などの交流を促すことで、自分の解釈にある程度の妥当性をもつことができるようにする。

全員による集団解決場面

個や少人数で生み出した解釈や根拠となる行動や会話などを引き出しながら、くまの親子の気持ちと場面の様子の関連に気付くことができるような発問や問い返しを行う。また、毎時間の終末に「お気に入りの場面とその理由」を考えると（個への戻り）で、自分の解釈の変容を捉えながら読み返すことができるようにする。

【登場人物の心の声や場面の様子の関連に気付かせる発問・問い返しの例】

- ①どの場面の「えいっ」も込められている気持ちは同じだね？ ②くまの子は疲れたから黙っていたんだね？
③くまの子は言い訳をする父さんをどう思っているの？ ④父さんが言った「なるほど。」ってどういうこと？

②自ら言葉に働きかけながら、表現をよりよいものにしようと伝え合う子供

単
元
の
終
盤

**III 発達した個人的興味の出現を促すために
～獲得した言葉の力を広げることができるような本や文章の提示～**

中心教材で獲得した言葉の力を運用していくことができる本や文章を教師が選書し、児童に提示する。本単元における「中心教材との関連性・類似性」を以下の視点で捉え、他作品を選書する。

- ①登場人物が少ない動物（親子）のお話であること。
- ②行動や会話から、登場人物の心の言葉が想像しやすいものであること。
- ③作品全体の雰囲気心が温まるものであること。
- ④作品を通して用いられるキーワード（『えいっ。』のようなもの）があること。

【掲示する作品の一部】

- ◆「じょうずだねちいこくん」マーティン・ワッデル
- ◆「こぎつねキッコ」本間正樹
- ◆「くじらのあかちゃん おおきくなあれ」神沢利子

**III (1) 内的活動の高まりを促すための工夫
～中心教材と他作品をつなぎ教師の関わり～**

本単元において、他作品とかかわったときに児童が気付く「関連性や類似性」は登場人物などの「作品の設定」にかかわることであると考え。そのため、教師は他作品においても「物語の謎」を解決していくことにより、場面の様子を膨らませていくことに気付くよう意図的にかかわっていく必要がある。主に「関連や類似」を図っていく視点は「登場人物の会話や行動」「気持ちと場面の様子の関連」についてである。これらの視点を促すことで、「意識的に」既得の言葉の力を運用しようとする思考を引き出しながら、自らの力で読みの一貫性を高め、ハートブックを作成していくことができるようになる。その際、それぞれの場面の登場人物の会話や行動から読み取った心の言葉を関連付けて読むことができていることなど、中心教材との「関連や類似」を図りながら価値付けすることで、より読書を楽しんだり、読書に親しんだりしながら主体的に読み進めることができるようになる。と考える。

③言葉との関わり方が分かり、日常の言語生活との関連を図りながら言葉にはたらきかける子供

8 本時について（6/10時間目）

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅱ-（1）について手立てを講じていくことになる。

Ⅱ-（1） 児童は、それぞれの場面の「謎」（心の声がわからないところ）を解決して自分の解釈や吹き出しを書いたり、お気に入りの場面とその理由を書いたりしながら、自分の読みを蓄積していく方法として「解決ブック」を用いてきている。全体で「謎」の解釈を交流していく場面では、同じ場面の「謎」を追究してきた小グループに「解決ブック」に蓄積された読みの発表を促す。その際、吹き出しの書いた言葉やその理由とともに、「どのような言葉に注目したか」を交流することで、自由な想像ではなく、確かな根拠を持って人物の心の声を想像できることに気付くことができるようにする。これらの手立てにより、自己の読みの一貫性を高めながら、表現を見直していくことができるようにしていく。

個で言葉と関わる場面

自分の選択した「謎」に関わる吹き出しやその根拠を本文や解決カードに書き込んでいくことを促すことで、自分の解釈の一貫性を問うことができるきっかけになるようにしていく。また、この時点での解釈には、矛盾や欠落、飛躍があってもよい段階とする。

少人数で言葉と関わる場面

吹き出しやその根拠とした言葉や文を交流することで、個で生み出した解釈に一定の妥当性を持たせることができるようにする。それとともに、同じ「謎」の解決を目指している児童と異なる「謎」を解決している児童の活動をつなぎ、自分の解釈の一貫性を高めていくことができるようにする。

全員で言葉と関わる場面

交流の中で生み出された空所を基に、「謎」についての自分の解釈や根拠とした言葉や文について交流することで、自己の読みを振り返りながら、考えを付加したり、改めたりし、「謎」の解釈の一貫性を持たせることができるようにする。そのために、次のような視点等に関わる発問や問い返しをしていく。

- ◆登場人物の「気持ちの変化」がわかる言葉やその「きっかけ」となる言葉。
- ◆「いつ変わったのか」が根拠付けられる言葉。
- ◆『えいっ。』に込められた気持ちは同じか、違うか。

このことにより、物語全体を捉えるとともに、着目する言葉を明確にしながら個の読みに戻るきっかけをつくることができるようにしていく。これらの段階的な読みを位置付けることにより、「自身の読みの一貫性を問う思考」を引き出し、「表現をよりよいものにしよう」と伝え合う姿、すなわち個人的興味を連続・維持させていく姿につなげていくことができると考える。

(2) 本時の目標

登場人物の会話や行動を表す叙述を基に「謎」の解釈を交流する活動を通して、登場人物の気持ちや場面の様子を関連付けながら、想像を膨らませて読むことができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 肯定感	評価 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○全文を音読したり「解決ブック」を基に吹き出しや「謎」の解釈を交流したりしながら、前回までの内容を想起し、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>・前回までは、同じ場面の「物語の謎」を解決してきたよ、吹き出しに書く言葉が決まってきたよ。 ・お気に入りの場面やその理由がしっかり書けるようになってきたよ。 ・同じ場面の「謎」は解決してきたけど、他の場面の人とはどんな「謎」を解決していたのかな。</p>	<p>□前時までに、解決してきた「謎」を黒板に整理することで内容を想起させるとともに、本時においても登場人物の「心の声」という共通の視点で他者と交流することで、より自分の考えがよりはっきりしていくであろうという見通しをもてるようにする。</p> <p style="text-align: right;">Ⅱ-（1）</p>	
「物語の謎」を解決して、吹き出しに書く言葉とその理由をまとめよう		
<p>○選択した「謎」を解き、心の声を解決ブックに書き込む。</p> <p>個で言葉と関わる場面</p> <p>・自分で選んだ「謎」を解決していこう →ポップコーンを買って二人で歩いているとき、いい気持ちだったのは、父さんの魔法（『えいっ。』）を見たからだと思うな。 →切符売り場で初めてくまの子が『えいっ。』と言ったとき、とてもうれしかったんじゃないかな。 →くまの子が口を開けて空を見上げていたのは、本当に星が出るかどうかを夢中になってみていたからだと思うよ。</p> <p>少人数で言葉と関わる場面</p> <p>○同じ場面の「謎」を解決しているグループで「謎」を解決し、解釈</p>	<p>□同じ場面の「謎」を追究している小グループで交流することにより、自分の吹き出しとその根拠となる叙述について話し合いながら、想像している考えの多様性に気付いたり、自分の表現を見直したりすることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">Ⅱ-（1）</p> <p>□異なる考えとその根拠となる叙述について問い返したり、板書で整理したりしながら関連付</p>	<p>▲活動が停滞している児童には、友達のを聞きながら自分の解釈を整理していくように促す。</p> <p>△根拠となる叙述を明確にして話し合いをすることができている児童には、その他の言葉との関連を促していく。</p>

を交流する。

- ・自分で解決した「謎」を伝え合いながら、どんな吹き出しを書いていたのかを交流しよう。
- くまの子が『えいっ。』をやってみようと思ったのは、子どもでもできるかどうかを確かめたかったからではないかな。
- 父さんが星や月を出せなかったときも、くまの子は感心していたから、父さんのことをすごいと思いつけていると思うな。
- 平気な顔をしているときは、タイミング（頃合い）を見計らうことができた信号だったからだよ。

全員で言葉と関わる場面

○違う「謎」を解決していた人の解釈を聞き、自分の「謎」とのつながりを考える。

- ・他の場面の「謎」を解決してきたグループは、どんな「謎」やどんな言葉を基に吹き出しを書いたのかな。
- くまの子がにこにこして『えいっ。』を言えたのは、『えいっ。』の魔法の謎が解けたからだよ。
- くまの子は2回『えいっ。』を言っているけど、同じ気持ちではないと思うな。
- 電車で帰っているとき、くまの子がだまって何か考えていたとき、父さんの魔法の答えが見つかったんじゃないかな。

○どのような言葉に着目すれば、根拠を持って「心の声」を想像することができるのかを考える。

- ・「黙って何か考えています。」「うれしそうに父さんの顔を見上げました」などの言葉を基に心の声を想像して吹き出しを書くことができそうだよ。
- 登場人物の様子を表す言葉に注目すると、理由をしっかりとって心の声を書くことができるんだね。
- ・登場人物の様子を表す言葉は他にどんなものがあるかを探して、吹き出しを書いてみよう。
- 「くまの子はにこにこして、言いました。」のところは、「やったあ。『えいっ。』の謎が解けて、ぼくもできるようになることができた。」という吹き出しが書けそうだよ。
- 「くまの子は感心して言いました。」のところは、「さすが父さんだな。星は思ったところに出なかったけど、やっぱりすごい。」という吹き出しが書けそうだよ。

○個々に読みを振り返り、解決カードに吹き出しやその根拠をまとめる。

- ・自分が解決していた「謎」とその理由をもっとはっきりさせていく必要があるよ。
- 初めて『えいっ。』を言った後、よろこばないで、何にも言わなかったのは、『えいっ。』のひみつを考えていたからだと思うよ。
- 父さんは「なるほど。」といって感心したけど、始めの場面ではそうは思っていないよ。子供の成長がうれしかったのかな。

○本時における自分や他者の読みについて振り返り、お気に入りの場面とその理由をまとめる。

- ・自分のお気に入りの場面は変わらなかったけど、吹き出しに書く言葉は少し変わりそうだよ。
- ・前回までの内容よりも、理由がはっきりしてきたよ。
- ・ハートブックに書く言葉が決まってきたから、次の時間から書いてみよう。

けていくことで、ただ想像するだけではなく、根拠となる言葉に注目して「心の声」を考えていく必要があることに気付くことができるようにする。Ⅱ- (1)

□「くまの子がにこにこして『えいっ。』を言えるようになった理由」を問うことにより、そのきっかけとして、自分で初めて『えいっ。』を言ってみた場面やその気持ちの変化について捉えることができるようにする。

□「くまの子はいつ気持ちが変わったのか」を問い、父さんへのあこがれを抱いていた始めの場面から、黙って何か考えている場面、最後に嬉しそうに父さんの顔を見上げる場面へ、それに関わる「謎」やその解釈を関連付けながら、物語の全体の登場人物の気持ちや様子を捉えることができるようにする。

□物語全体を捉えた上で、「くまの子がうれしそうに、父さんの顔を見上げたときの心の声」や「父さんがなるほどと言ったときの心の声」とそこに至った過程について問うことで、一つの場面にとらわれず、様々な場面の「謎」の解釈を関連付けながら、根拠を持って吹き出しを書くことができるようにする。Ⅱ- (1)

□全体交流を基に、再度、個で読み直したり、吹き出しを書いたりすることで、自分の読みをより確かなものにしながらか表現することができるようにする。Ⅱ- (1)

■本時を振り返り、様々な「謎」を基に考えた吹き出しの交流を通して、自分の読みの根拠がより明確になったことについての価値付けを行い、表現を整理していく意欲を高めることができるようにする。

【読オ～
観察・発言・記述】

▲根拠となる言葉や文に着目できていない児童には、全体への問い返しや板書の内容を基に理解を促すことができるようにする。

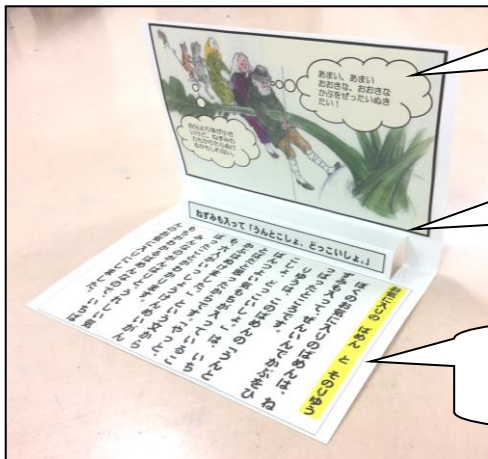
△自分の解釈が的確に整理できている児童がいた場合、その解釈を全体に共有していくことができるようにする。

▲様子を表す言葉を探すことができない児童には、「～は○○に(で)言いました」の文に着目することを促す。

△「心の声」の根拠となる言葉を的確に探ることができている児童には、着目した言葉をどのように言い換えることができるのかを問う。

【読オ～
観察・発言・記述】

ハートブックの見本 ～「おおきなかぶ」で提示～



【上段】

挿絵や叙述から読み取った「心の声」(吹き出し)を書く。

【中段】

繰り返される言葉の中でお気に入りのものを書く。

【下段】

お気に入りの場面とその理由及び場面の様子を書く。



ねずみも入って「うんとこしょ、どっこいしょ。」

お気に入りの ばめんと そのりゅう

ぼくのお気に入りのばめんは、ねずみも入って、ぜんいんでかぶをひっぱったところです。

りゅうは、このばめんの「うんとこしょ、どっこいしょ。」は、いちばんつよい気もちが入っていることばだと思ったからです。「やっと、かぶはぬけました。」という文からも、六人がいっしょうけんめいがんばったことがわかります。

みんなのがんばりと、うれしい気もちがわかるばめんなので、いちばんのお気に入りにしました。